

平成27年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会  
学習指導の工夫改善に関する研究グループ

1 委員名簿

主任・副主任	研究主任・副主任	研究員
○池田校長（豊西小） ○岡本校長（名寄東中） 福田校長（智恵文小） 中村校長（東風連小） 向山校長（智恵文中）	○鈴木教頭（名寄南小） ○貞弘教頭（名寄東中） 赤澤教頭（風連中央小） 大野教頭（風連下多寄小）	櫻田教諭（名寄小） 増田教諭（名寄小） 高橋教諭（名寄南小） 松木教諭（名寄西小） 加藤教諭（名寄西小） 福川教諭（豊西小） 柏倉教諭（風連中央小） 重森教諭（東風連小） 森谷教諭（風連下多寄小） 斉藤教諭（名寄中） 堀田主幹教諭（名寄東中） 岡教諭（風連中） 飯濱教諭（智恵文中）

2 研究内容

- (1) 学習規律の徹底：学習会、児童生徒アンケート分析、児童・生徒の主体的活動
- (2) 道徳の時間（「名寄岩」：小学6年生）の授業実践
- (3) 道徳の時間指導案（希望・勇気・努力）の作成：小学3年生・中学3年生
- (4) ミドルリーダー育成研修会  
（教科書を適切に使用した指導の取組、言語活動の充実に関する取組）

3 取組概要

- < 4月28日 > ◇第1回名寄市教育改善プロジェクト委員会  
◇第1回グループ会議  
○研究活動の内容と計画会議
- < 5月22日 > ◇第2回名寄市教育改善プロジェクト委員会  
◇第2回グループ会議  
○研究内容（学習規律、道徳教育、ミドルリーダー育成研修会）  
と研究計画の確認
- < 9月 7日 > ◇第3回グループ会議  
○ミドルリーダー育成研修会  
・教科書を適切に使用した指導の取組  
・言語活動の充実に関する取組  
○研究活動：学習規律の徹底、道徳指導案作成
- < 10月 5日 > ◇第4回グループ会議  
○道徳の時間授業公開（名寄小学校6年生）及び授業反省
- < 11月 2日 > ◇第5回グループ会議  
○学習規律（児童・生徒の主体的活動）の交流  
○道徳の時間指導案（希望・勇気・努力）の検討
- < 12月14日 > ◇第1回名寄市教育改善プロジェクト委員会
- < 1月中旬 > ◇研究のまとめ答申
- < 1月26日 > ◇名寄市教育研究集会（成果の発表）
- < 2月中旬 > ◇研究計画（平成28年度）の検討

4 成果と課題

【成果】

- ・学習規律に関しては、年2回のアンケートの実施と分析により、名寄市全体としての課題を把握することができた。また、学習会や児童生徒が主体的に学ぶ取組等について交流することにより、学習規律の定着を図ることの意義の再確認と他校の実践を共有する機会を設けることができた。
- ・道徳教育に関しては、郷土資料による「名寄岩」の実践交流や指導案の検討・作成により、道徳の教科化を見据えた研修を深めることができた。
- ・ミドルリーダー育成研修会では、教科書を適切に使用した指導の取組と言語活動の充実に関する取組を推進する必要性を共有することができた。

【課題】

- ・学習規律の徹底ができていない項目について、実効性のある改善策を策定し、学校全体で効果的な指導の推進を図る必要がある。

## 本年度の学習規律について

### 1. ねらい

全校で統一した「学習のきまり」を設定し、取り組むことで、学習指導や学級経営を効果的に行うことができる。

### 2. 内容

名寄市教育改善プロジェクト委員会の「名寄市学習規律（10項目）」をもとにした「風連中央小学校学習のきまり」を作成し、その定着を図る。

### 3. 実施方法

- ①年度当初に10項目を理解させる。…読み合わせ用の資料を教務が用意する。
- ②10項目について学級掲示する。…掲示物を教務が用意する。
- ③月毎に重点項目を設定するとともに、重点項目を掲示し学級で啓発する。…掲示物を教務が用意する。
- ④月毎に教師が評価・分析することで達成状況を確認し、今後の指導の参考とする。
- ⑤名寄市教育改善プロジェクト委員会と連携して取り組む。

### 4. 指導項目と月毎の重点

「風連中央小学校学習のきまり」	重点
1. チャイムがなったら素早く席に着く。 ・特別教室等へ移動する場合は静かに移動する。	4月
2. 学習の始めのあいさつをきちんとする。 ・忘れ物をした場合は授業が始まる前に先生に伝える。 ・姿勢良くあいさつをする。	5月
3. 正しい姿勢で座る。 ・背筋を伸ばして深くいすに腰掛ける。	6月・2月
4. はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す。 ・「はい」「～です」「～ます」など、最後まではっきりと話す。	7月・2月
5. 話す人を見ながら最後まで聞く。 ・話す人の方に体を向け、目を見て話を聞く。	8月・3月
6. むだ話や手遊びをしない。 ・最後まで授業に集中する。	9月・3月
7. 必要のないものを机の上に置かない。 ・授業中、教科書は左、ノートは右、筆記用具は上に置くなど、配置をきちんと決める。（右利きの場合）	10月
8. 学習中、勝手に席を離れない。 ・離れる場合には、先生に理由をきちんと伝える。	11月
9. 学習の終わりのあいさつをきちんとする。 ・姿勢良くあいさつをする。	12月
10. 学習用具を片付け、次の学習の準備をする。 ・教科書やノート、筆記用具など、必要な用具を机の上に置く。 ・いすを机の下に入れる。	1月

### 5. 留意点

- ・年度当初の説明では、学習規律の項目だけでなく、「目的」についても学年に応じて説明する。
- ・学級の実態に応じて各月の重点を増やしてもよいこととする。係へ報告があれば配布物も用意する。
- ・特別支援学級においては、児童の実態に応じた項目を扱うこととする。
- ・学習規律が「学習（授業）の目的」とならないように気をつける。
- ・昨年度の教職員アンケートでは、項目の3・4・5・6が課題となっていた。

## 「名寄市学習規律(10項目)」の取組について

名寄東中学校 堀田 大次郎

名寄市教育改善プロジェクト委員会により市内小中学校で一貫した「名寄市学習規律」が示されました。10項目を基本として各学校の実態に合わせて取り組んでいるところかと思いますが、名寄東中学校の実態を紹介しながら確認したいと思います。

### 1. チャイムがなったら素早く席に着く。

- ・集団で特別教室等へ移動する場合は整列して静かに移動する。

- 名寄東中学校では「3分前着席」を実践しています。すべての教科、すべての学年で共通した取組になっています。
- 儀式的行事など体育館に全員が集まる場面では整列し、静かに移動させていますが、特別教室に移動するときの態度に関しては今後の課題です。

### 2. 学習の始めのあいさつをきちんとする。

- ・忘れ物をした場合は授業が始まる前に教員に伝える。
- ・姿勢良く、始業のあいさつをする。

- 今年度から「礼をしてからあいさつ」という形で取り組んでいます。「ながらあいさつ」にならないような取組です。
- 忘れ物は始業前に、担当教科の先生に伝えることになっています。3分前着席をしているので比較的徹底されています。

### 3. 正しい姿勢で座る。

- ・背筋を伸ばして深くいすに腰掛ける。

- 目に余る姿勢の生徒はいませんが、「正しい姿勢」「良い姿勢」とは言えない生徒もいます。身長に合わせた机・いすのサイズになっていない実態があります。

### 4. はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す。

- ・「はい」「～です」「～ます」など、最後まではっきりと話す。

- 最も不十分な項目です。1年生の入学当時は比較的元気よく返事や発言ができて、学年が上がるごとに、徐々にボリュームが下がっていきます。本校の課題の一つです。

### 5. 話す人を見ながら最後まで聞く。

- ・話す人の方に体を向け、目を見て話を聞く。

- 一生懸命聞こうとする生徒もいますが、どちらかというと、うつむいている生徒やよそ見をしている生徒が多いのが実態です。
- 自分の座席より後ろに座っている生徒が発言をしているときに、そちらを向かせることはさせていません。

6. むだ話や手遊びをしない。

- ・最後まで授業に集中する。

○ 授業を妨害するようなむだ話はほとんどありません。手遊びがやめられない生徒は各学級に数人います。

7. 必要のないものを机の上に置かない。

- ・授業中、教科書は左、ノートは右、筆記用具は上に置くなど、配置をきちんと決める。

○ 教科書や文具以外の不要な物を机の上に置いている生徒はいませんが、配置を決めたり机に出すものを限定したりすることはしていません。

8. 学習中、勝手に席を離れない。

- ・離れる場合は、教員に理由をきちんと伝える。

○ 本校ではこのような行為は全くありません。

9. 学習の終わりのあいさつをきちんとする。

- ・姿勢良く、終業のあいさつをする。

○ 始業のあいさつ同様です。

10. 学習用具を片付け、次の学習の準備をする。

- ・教科書やノート、筆記用具など、必要な用具を机の上に置く。
- ・いすを机の下に入れる。

○ 片付け、準備は比較的徹底されています。

○ いすを入れる指導は十分ではありません。

**学習規律徹底に向けた方策**

○年度始め、学期始めでの確認

- ・教職員間での確認→児童・生徒への周知
- ・どの先生も同じ対応ができるように

○児童・生徒からの声掛け

- ・児童会・生徒会、委員会、学級役員、係などから学習規律の徹底に向けた声掛け
- ・自分たちで律することができるように

○アンケート

- ・自覚を促すためのアンケート
- ・日常をふりかえり、改善することができるように

# 「学習規律に関する児童生徒アンケート」集計表

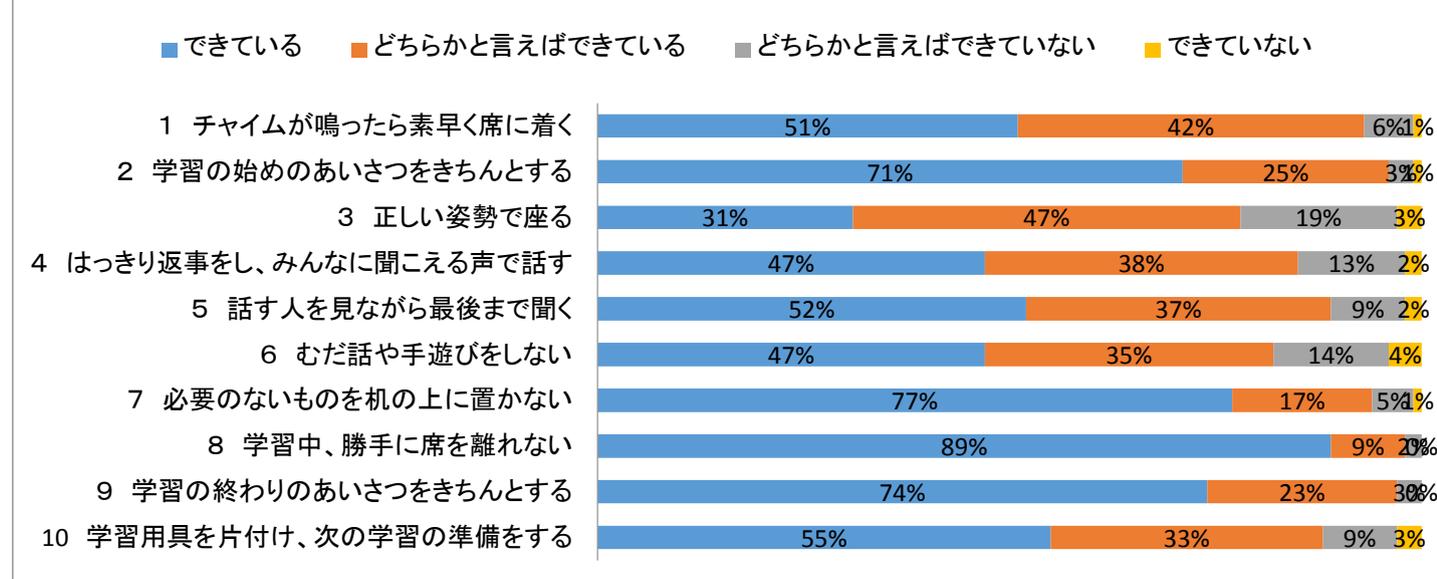
名寄市教育改善プロジェクト委員会「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」

学校名	名寄市内10小学校
学年	小学生
実施時期	6月期

## ○ 学習規律に関するアンケート結果（人数）

項目	できている	どちらかと言えはできている	どちらかと言えはできていない	できていない	計
1 チャイムがなったら素早く席に着く	688	562	86	8	1344
2 学習の始めのあいさつをきちんとする	959	341	35	9	1344
3 正しい姿勢で座る	415	631	251	47	1344
4 はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す	637	503	179	25	1344
5 話す人を見ながら最後まで聞く	701	487	126	30	1344
6 むだ話や手遊びをしない	623	472	191	58	1344
7 必要のないものを机の上に置かない	1033	232	62	17	1344
8 学習中、勝手に席を離れない	1193	121	21	9	1344
9 学習の終わりのあいさつをきちんとする	992	306	35	11	1344
10 学習用具を片付け、次の学習の準備をする	735	439	127	43	1344

## アンケート結果（％）



# 「学習規律に関する児童生徒アンケート」集計表

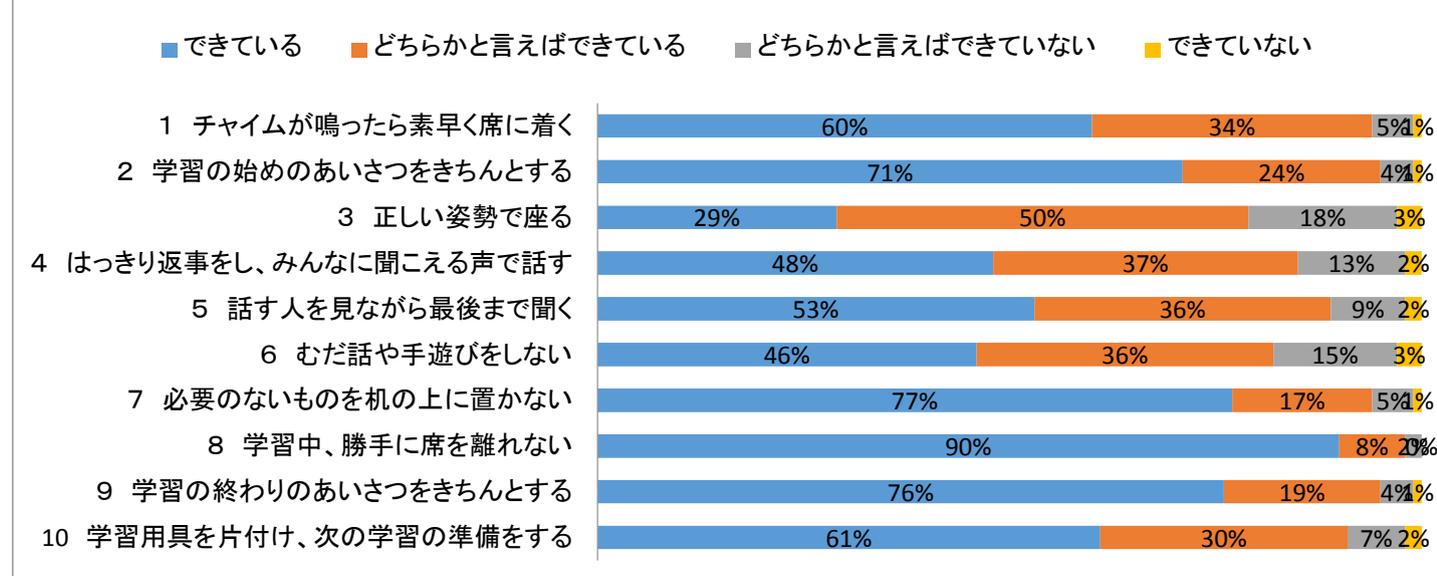
名寄市教育改善プロジェクト委員会「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」

学校名	名寄市内10小学校
学年	小学生
実施時期	11月期

## ○ 学習規律に関するアンケート結果（人数）

項目	できている	どちらかと言えばできている	どちらかと言えばできていない	できていない	計
1 チャイムがなったら素早く席に着く	797	446	70	15	1328
2 学習の始めのあいさつをきちんとする	919	308	51	11	1289
3 正しい姿勢で座る	381	661	235	41	1318
4 はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す	648	493	173	26	1340
5 話す人を見ながら最後まで聞く	708	478	120	21	1327
6 むだ話や手遊びをしない	611	476	209	41	1337
7 必要のないものを机の上に置かない	1030	225	60	16	1331
8 学習中、勝手に席を離れない	1193	106	21	4	1324
9 学習の終わりのあいさつをきちんとする	1009	251	51	7	1318
10 学習用具を片付け、次の学習の準備をする	803	402	96	27	1328

## アンケート結果（％）



# 「学習規律に関する児童生徒アンケート」集計表

名寄市教育改善プロジェクト委員会「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」

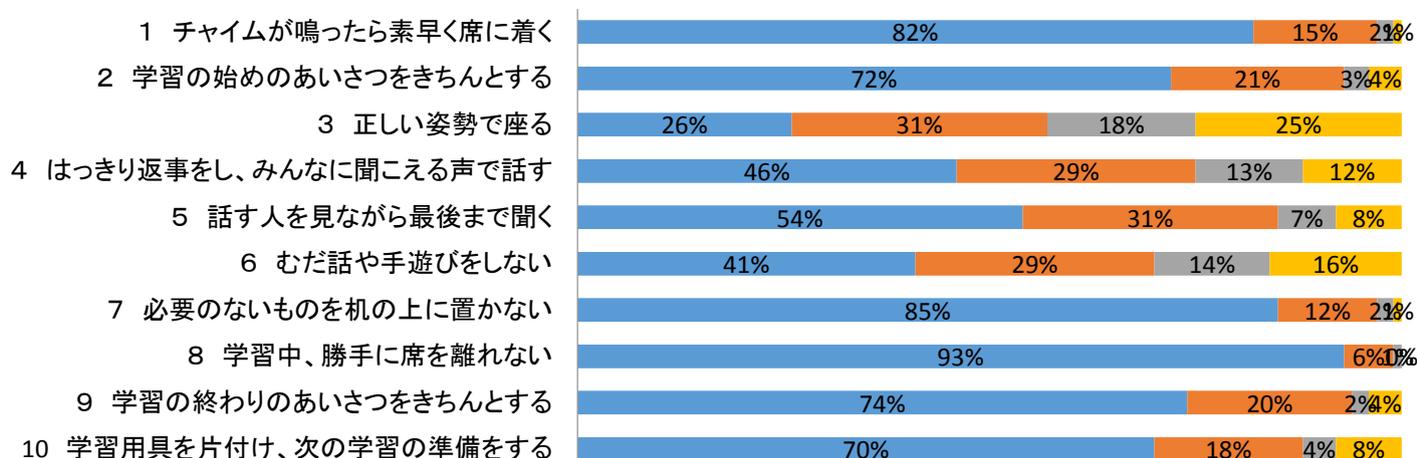
学校名	名寄市内4中学校
学年	中学生
実施時期	6月期

## ○ 学習規律に関するアンケート結果（人数）

項目	できている	どちらかと言えはできている	どちらかと言えはできていない	できていない	計
1 チャイムがなったら素早く席に着く	555	97	14	9	675
2 学習の始めのあいさつをきちんとする	486	142	23	24	675
3 正しい姿勢で座る	176	206	122	171	675
4 はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す	312	196	86	81	675
5 話す人を見ながら最後まで聞く	363	211	50	51	675
6 むだ話や手遊びをしない	280	193	93	109	675
7 必要のないものを机の上に置かない	577	81	13	4	675
8 学習中、勝手に席を離れない	628	42	4	1	675
9 学習の終わりのあいさつをきちんとする	497	135	13	30	675
10 学習用具を片付け、次の学習の準備をする	475	119	29	52	675

## アンケート結果（％）

■できている ■どちらかと言えはできている ■どちらかと言えはできていない ■できていない



# 「学習規律に関する児童生徒アンケート」集計表

名寄市教育改善プロジェクト委員会「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」

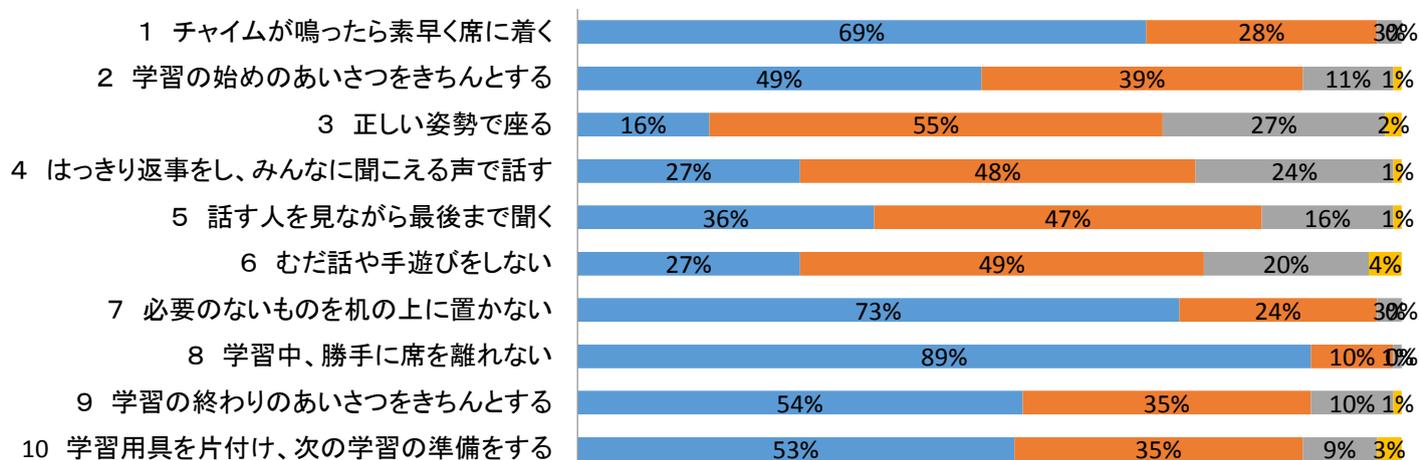
学校名	名寄市内4中学校
学年	中学生
実施時期	11月期

## ○ 学習規律に関するアンケート結果（人数）

項目	できている	どちらかと言えばできている	どちらかと言えばできていない	できていない	計
1 チャイムがなったら素早く席に着く	458	183	18	2	661
2 学習の始めのあいさつをきちんとする	323	258	75	4	660
3 正しい姿勢で座る	107	359	181	14	661
4 はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す	180	319	154	8	661
5 話す人を見ながら最後まで聞く	235	307	108	10	660
6 むだ話や手遊びをしない	177	322	135	27	661
7 必要のないものを机の上に置かない	480	156	22	2	660
8 学習中、勝手に席を離れない	589	65	5	2	661
9 学習の終わりのあいさつをきちんとする	357	234	64	6	661
10 学習用具を片付け、次の学習の準備をする	350	231	58	22	661

## アンケート結果（％）

■できている ■どちらかと言えばできている ■どちらかと言えばできていない ■できていない



# 「学習規律に関する児童生徒アンケート」結果の分析

名寄市教育改善プロジェクト委員会

「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」

## 1. 最新の11月期アンケート結果から

### (1) 小学生

「どちらかと言えばできていない・できていない」に着目すると、『正しい姿勢で座る』『むだ話や手遊びをしない』という〈授業に向かう姿勢〉に課題を残す結果となった。また、『はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す』『話す人を見ながら最後まで聞く』という、〈話す・聞く姿勢〉に若干の課題が見られた。

### (2) 中学生

『返事・聞こえる声で話す』『むだ話・手遊び』『聞き方』に関して課題が見られた。また、『正しい姿勢で座る』について、ほぼ3割の中学生が「どちらかと言えばできていない・できていない」と回答するなど、小学生同様に、〈授業に向かう姿勢〉が課題である。



## 2. 6月期と11月期の比較から

### (1) 小学生

『学習用具を片付け、次の学習の準備をする』『チャイムが鳴ったら素早く席に着く』という〈学習に向かう準備〉に関する項目が、6月期と比べ11月期は大きくプラス評価が増えている。その他の項目に大きな変化は見られなかった。

### (2) 中学生

『正しい姿勢で座る』『むだ話や手遊びをしない』に関する項目が、6月期と比べ、11月期は「できている・どちらかと言えばできている」が14%の増となるなど、〈学習に向かう姿勢〉に改善の傾向見られた。しかし、『学習の始めのあいさつをきちんとする』『学習の終わりのあいさつをきちんとする』という〈あいさつ〉に関しては、マイナス評価が増える結果であった。



## 3. 小学生と中学生の比較から

小学生、中学生とも学習規律の定着状況に改善の傾向が見られるが、〈姿勢〉〈むだ話・手遊び〉〈話す・聞く〉という項目については、6月期・11月期とも他項目と比べ若干、定着状況が低い結果となっている。

今後も、これらの項目が改善されるような《教師側の仕掛け》《児童・生徒を主役とした改善策》が必要である。

# 児童・生徒が主役となった学習規律改善

学校名 名寄南小学校

## 1. 学校・学年の課題（アンケート結果から）

- ・「姿勢」「返事」「見ながら聞く」「むだ話・手遊び」に少々課題が見られました。このため、2学期以降は、これらの項目について、児童主体の取組を実践しています。

## 2. 児童・生徒が主役となった取組内容

### （1）SHR での呼びかけ、読み上げ、反省、自己評価

- ・めあて係が、朝の会で学習規律を確認し、帰りの会で振り返りを行う。（1年）
- ・帰りの会で、その月の重点目標について自己評価する。（4年）
- ・係児童が、朝と帰りの会で月別目標を呼びかける。（3年）
- ・日直が、朝の会で学習規律を確認し、帰りの会で反省を行う。達成状況に応じて「学習のやくそくビー玉貯金」のビー玉をためるなど、一人一人が主体的に取り組めるように活動方法を工夫する。（2年）
- ・朝の会で、児童が月別重点目標を一斉に読み上げる。（6年）

### （2）児童による紹介

- ・学習の約束係が中心となり、学習規律をきちんと守っている人をクラス全員に書いてもらい学級で紹介する。（4年）
- ・「輝け南っ子 五七五ラリー計画」にて、児童の良い行動を集約する。その中の「学習規律」に関わる内容を取り上げ、児童の発達段階に応じてわかりやすく紹介する。（児童会本部）

### （3）児童による声かけ

- ・係活動（学習係、整理整頓係、日直、点検係など）の取組として、学級全体に学習準備、立腰、整理整頓などを呼びかけや声かけをする。（6年）
- ・はじまりとおわりの号令をかける時に、学級目標、学年目標を声を揃えて唱えることにより、けじめある雰囲気をつくる。（5年）
- ・「気を付け」ではなく「立腰」と号令することで、姿勢を意識させる。（5年）

### （4）その他

- ・話す・聞く態度については、周囲の視線が集中してから話すよう意識させている。"

## 3. 成果と課題

### （1）成果

- ・子どもたちが主体的に取り組もうとする意識の向上につながっている。
- ・毎日の「めあて」を決定するときに学習規律に関わるものが多くなった。
- ・「ビー玉貯金」は、貯まる喜びがあるので、学習規律に対する意識が高まっている。
- ・「話す人をみる」の規律では、児童自ら「早く見よう選手権」と名付けて工夫していた。
- ・「座席を決める」時に、学習規律が守られているか、守られていないかという観点で決定するため、学習規律に関する児童の意識向上につながっている。
- ・「学習規律」と教師が声をかけると、子どもたちの係が治湯的に活動するようになってきた。

### （2）課題

- ・行事で落ちつかない時期は、意識の低下が見られる。
- ・学習規律に対する自己評価の基準が曖昧。

# 児童・生徒が主役となった学習規律改善

学校名 風連中学校

## 1. 学校・学年の課題（アンケート結果から）

学校として・・・「姿勢」「むだ話」「返事」  
1 学年の課題・・・「姿勢」「返事」  
2 学年の課題・・・「姿勢」「むだ話」「返事」  
3 学年の課題・・・「姿勢」「むだ話」「返事」

## 2. 児童・生徒が主役となった取組内容

### (1) 各学級の取組

< 2 学年の例 >

総務係が中心となり、学習規律の定着に係る学年の課題克服に向けて次のような取組を行った。  
週末に学級委員長が生徒に「姿勢」「むだ話」「返事」について意識した生活ができたかについて確認することにより、取組の成果を実感させるとともに、次の週の生活における課題意識を持たせた。（毎週末に簡易アンケートの実施）

また、「学習規律」の定着をよびかける掲示物を作成し学級に掲示した。

### (2) 学習常任委員会の取組

【3 年生成成ポスター】

【1 年生短学活風景】

6 月の委員会で

- ① 学年ごとにアンケート結果の分析を行った。
- ② 課題となっている項目について注意喚起するためのポスターを作成した。
- ③ 翌日の朝の短学活でポスターを使ってアンケートの分析結果を発表し、注意喚起を行った。



## 3. 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 生徒自らが学習規律に関するアンケートの分析を行うことで、学習規律について学級の実態を再認識させることができた。また、注意喚起を促すためのポスターを作成するなど、分析結果を学級全体にわかりやすく伝えることができるよう工夫することもできた。
- ・ 2 学年の学級の取組では、簡易アンケートの結果から数値が改善方向に少しずつ推移していく様子が見られた。

### (2) 課題

- ・ 分析に関わった常任委員や係員の学習習慣の改善に向けた意識は高まったが、他の生徒との意識の差が見られる。
- ・ 2 回のアンケート結果を比較し、今後の対策を考える必要がある。

小学校 第6学年 道徳の時間学習指導案

主題名	困難を乗り越えて		
資料名	名寄岩	出典	自作資料（参考文献：「涙の敢闘賞」）
学習指導要領の「内容」	1－（2）希望・勇気・努力 より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。		
ねらい	より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする態度を養う。		
資料のあらすじ	名寄岩は相撲界で『名寄』を全国的に広めた力士である。昭和7年の初土俵以来昭和29年（40歳）の引退まで不撓不屈の精神で相撲を取り続ける。「病気のデパート」と名付けられるほど多くの病気を患い、大関から陥落。しかし、名寄岩は相手力士や病と勇気をもって立ち向かった。律儀で礼儀正しい名寄岩の相撲道は、「力士の鑑」として、日本相撲協会より特別賞を受賞する。		
他教科・他領域や日常指導などとの関連	6年生は、小学校最高学年として自分の将来について真剣に考え始める時期である。自分を振り返る段階において、日常生活で努力していることや今後努力すべきことを交流し合う活動を通して、自己実現のための実践意欲を喚起する。また、キャリア教育の一環として、目標をもって生活することの大切さと関連付けて指導する。		
評価	目標に向かって、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする態度が養われたか。		

段階	学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点 ◆指導の工夫 ★評価
導入	(1)本時の価値への方向付けをする。 ・自分の今の目標や頑張っていることを想起し、交流する。	●本時のねらいを明確にする。 ◆「私たちの道徳」を活用する。
展開	(2)名寄岩について知っていることを発表する。 ・お相撲さん ・名寄出身の人 ・スポーツセンターにある銅像  (3)「名寄岩」を読んで話し合う。 ①努力を続けて大関になった名寄岩は、どんな気持ちだったか。 ・努力が実ってうれしい。 ・これからもしっかり頑張ろう。	◆写真や映像を提示し、資料への導入を図る。  ◆資料の提示方法を工夫する。 ●自分の目標に向かって努力を続けた名寄岩の喜びや次への意欲に共感させる。

<p>②病気を患い、努力して勝ち取った大関から陥落したとき、名寄岩はどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陥落して悔しい。</li> <li>・相撲をやめたい。</li> <li>・もっと努力してもう一度大関になる。</li> </ul> <p>③なぜ、名寄岩は大関から陥落しても相撲をやめなかったのだろうか。(中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相撲が大好きだったから。</li> <li>・心が強い人だったから。</li> <li>・自分が納得するまで相撲をとりたかったから。</li> </ul> <p>④相撲をやめる道を選ばず、好成績で敢闘賞を受賞した名寄岩をどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の夢に向かって努力する姿勢がすばらしい。</li> <li>・自分も努力する姿勢を見習いたい。</li> <li>・自分も努力して夢を実現したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●名寄岩の状況（多くの病気を患い、周囲からは「病気のデパート」と名付けられ、痛みのせいで稽古も十分にできない）を確認する。</li> <li>●名寄岩が困難に直面した時の辛さや苦しさを感 じ取らせる。</li> <li>●困難に挫折しそうになりながらも、自分の目標に向かって頑張ろうとする心の葛藤を理解させる。＜心の揺さぶり＞</li> <li>◆ワークシート等を活用する。</li> <li>★目標に向かって、希望をもってくじけないで努力することの大切さについて考えることができたか。</li> <li>●自分が名寄岩だったら、同じ困難を乗り越えることができたかどうかを考えさせる。 (補助発問)</li> <li>●目標達成のためには、だれもが弱さを乗り越えていることに気づかせる。</li> <li>●名寄岩の充実感や満足感を通して、目標達成の喜びを感じ取らせる。</li> </ul>
<p>(4)生活を振り返って話し合う。</p> <p>①自分の目標を達成するために、これから大切にしたいことはどんなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦する。</li> <li>・くじけないで頑張る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ワークシート等を活用する。</li> <li>◆今後努力すべきことを交流することで目標に向かって努力しようとする実践意欲を喚起する。</li> <li>★目標に向かって努力しようとする実践意欲を高めることができたか。</li> </ul>
<p>終末 (5)本時を振り返る。</p> <p>①本時の学習から気付いたことや心に残ったことを発表する。</p> <p>②教師の説話</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本時の価値について確認する。</li> <li>●「私たちの道徳」を活用する。</li> </ul>

小学校 第3学年 道徳の時間学習指導案

主題名	やろうと決めたことは最後まで		
資料名	きっとできる	出典	『私たちの道徳』（三・四年）
学習指導要領の「内容」	1－（2）努力・不撓不屈 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。		
ねらい	自分で決めたことは、粘り強くやり遂げようとする態度を育てる。		
資料のあらすじ	シドニーオリンピックで、日本人女子マラソン史上、初の金メダルを獲得し、国民栄誉賞を受賞した高橋尚子さん。彼女は、学生時代は無名の選手であった。自分より速い選手を目の前に、ため息をつきながら、自分が走る意味を考えていた。そんな日々の折、幼少期から走ることが単純に好きであったことを思い出し「人と戦うのではなく、自分自身と戦う」ということに気付いた。それからというもの、小さな目標を立ててそれを日々達成していくために誰よりも努力を積み重ね、自分の記録を伸ばすようになる。小出監督との出会いのもと、自分をさらに高め続けた結果、シドニーでついに金メダルを獲得するに至る。		
他教科・他領域や日常指導などとの関連	3年生は、低学年では経験しなかった教科・活動が加わることもあり、様々な場面で何かと躓くことが多い時期である。その躓きを生かし、自己の目標を立て少しずつ努力し、達成出来る喜びを積み重ねていくことで自己実現を図り、様々な学習・活動に対して意欲的に臨み続ける児童を育てていきたい。また、本時の学習が、キャリア教育の一環として、目標を立てて生活することの大切さと関連付けて指導するよう配慮する。		
評価	目標を立て、それに向かって粘り強くやり遂げようとする態度が養われたか。		

段階	学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点 ◆指導の工夫 ★評価
導入	(1)本時の価値への方向付けをする。 ・自分の今の目標や頑張っていることを想起し、交流する。	◆「私たちの道徳P22」を活用して話し合う。 ◆ペア学習などを有効に取り入れる。 ●本時のねらいを明確にする。
展開	(2)高橋尚子さんについて知っていることを発表する。 ・ヤマダ電気のCM ・オリンピックの女子マラソンで金メダルを取った ・国民栄誉賞をとった  (3)資料「きっとできる」を読んで話し合う。 ①テレビを見ていた尚子のため息をついたのはなぜか。 ・みんな自分より速かったから。 ・自分が走る目標がよく分からなくなった。 ・自分も頑張っているのに勝てないから悔しかった。 ・もっと速くなりたいと思った。	◆写真や映像を提示し、資料への導入を図る。 ・写真を数枚提示 ・動画（部分的に活用することも検討） <a href="https://www.youtube.com/watch?v=M-K6t1hFySg">https://www.youtube.com/watch?v=M-K6t1hFySg</a> ◆資料（「私たちの道徳」P26）の提示方法を工夫する。 ●あきらめのため息ではなく、「自分自身の悩み」であったこと、さらに「自分も速くなりたい」という気持ちにも気付かせる。

	<p>②尚子が考えた練習方法とは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな目標をクリアする。</li> <li>・自分の記録を自分で破る。(自分へのちょう戦)</li> <li>・つらいときは自分を励まし、できたときはほめる。</li> </ul> <p>③大学生の尚子が、つらい練習でも続けることができたのは、どのような思いがあったからか。(中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここであきらめてはいけない。</li> <li>・人と戦うのではなく、自分自身と戦うんだ。</li> <li>・頑張ればきっとできる。</li> </ul> <p>④オリンピックで優勝のゴールテープを切ったとき、尚子はどのような気持ちだったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まであきらめずに練習してよかった。</li> <li>・走ることが楽しくてたまらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●悩みを解消し、自分自身の記録と戦おうと気持ちを切り替えたことに気付かせる。</li> <li>●「今よりもっとよくなりたい」という気持ちが、尚子の気付きを生み、「頑張ればきっとできる」という思いを支えていたことに気付かせる。</li> <li>●つらさに負けそうになりながらも、自分の目標に向かって頑張ろうとする心の葛藤を理解させる。〈心の揺さぶり〉</li> <li>●尚子の充実感や満足感を通して、目標達成の喜びを感じ取らせる</li> </ul>
	<p>(4)生活を振り返って話し合う。</p> <p>①「今よりも、よくなりたい」ことを考え、どのように頑張ったらよいか(具体策)について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな目標を立てて頑張る。</li> <li>・毎日こつこつ努力する。</li> <li>・くじけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆私たちの道徳P23を活用し、頑張る手立てを参考にワークシート等に記入させる。</li> <li>◆今後頑張ることとその方法を交流することで目標に向かって粘り強くやり遂げようとする実践意欲を喚起する。</li> <li>★目標を立て、それに向かって粘り強くやり遂げようとする実践意欲を高めることができたか。</li> </ul>
終末	<p>(5)本時を振り返る。</p> <p>①本時の学習から気付いたことや心に残ったことをまとめ、発表する。</p> <p>②教師の説話</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本時の価値について確認する。</li> <li>◆「私たちの道徳」を活用する。</li> </ul>

中学校 第3学年 道徳の時間学習指導案

主題名	目標に向かう強い意志		
資料名	メッセージ『松井秀樹』	出典	『私たちの道徳』（中学校）
学習指導要領の「内容」	1－（2）希望・勇気・強い意志 より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。		
ねらい	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜こうとする態度を育てる。		
資料のあらすじ	松井秀喜は1990年代から2000年代の球界を代表する長距離打者で、日米で活躍し、2013年には国民栄誉賞を受賞。しかし、メジャーリーグに移籍した当初は思うような成果を上げられずに悩むこともあった。しかし、大きな目標を達成するために小さな目標を設定し、具体的な行動目標を立てた。		
他教科・他領域や日常指導などとの関連	中学生の時期には、自分の好むことや価値を認めたものごとに取り組むとき、意欲が高まる。しかし、障害や困難に直面すると簡単に挫折したり、苦労や努力が必要と予想されることに対しては無関心な態度を示したりすることも多い。 そこで、松井秀喜選手の生き方を学ぶことで、困難に屈することなく、粘り強く着実にやり遂げる強い意志と態度を育てる。		
評価	いろいろな障害や困難に挫折することなく、より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜こうとする態度が養われたか。		

段階	学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点 ◆指導の工夫 ★評価
導入	<p>(1) 本時の価値への方向付けを行う。</p> <p>①中学生のうちに達成したい目標を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に関わること</li> <li>・部活動に関わること</li> <li>・テストに関わること</li> </ul> <p>②目標を達成した時と挫折した時の取り組み方やその時の気持ちの違いを考える。</p> <p>A達成…真剣、本気、うれしい、自信</p> <p>B挫折…中途半端、あきらめた、悔しい、自己否定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時のねらいを明確にする。</li> <li>● 私たちの道徳P. 17に書き込む。</li> <li>● 全体交流し、気持ちの共有を図る。</li> </ul>
展開	<p>(2) 松井秀樹について知っていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野球選手</li> <li>・読売ジャイアンツ</li> <li>・メジャーリーガー</li> </ul> <p>(3) 松井選手の資料を読んで、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 松井選手のプロフィールを「映像・写真・文書」などで提示し、資料への導入を図る</li> <li>● 私たちの道徳P. 20を読み、松井選手の気持ちを考えせる。</li> </ul>

	<p>①松井選手はどのような気持ちで大リーグに挑戦したのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で活躍したい。</li> <li>・自分の力を試したい。</li> <li>・高いレベルでやりたい。</li> </ul> <p>②移籍当初、ゴロ王と呼ばれた時、松井選手はどんな気持ちだったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしい、みじめ。</li> <li>・悔しい、こんなはずじゃない。</li> <li>・日本に帰りたい。</li> </ul> <p>③スランプのときの松井選手を支えたものは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強い気持ち。</li> <li>・ファンの期待。</li> <li>・目標を数字から行動にしたことでの手応え。</li> </ul> <p>④小さな目標を決めてからの松井選手の気持ちはどう変わったのか。</p>	<p>●大きな夢や希望をもって大リーグに挑戦した気持ちに共感をもたせる。</p> <p>●自信を打ち破られた松井選手の辛さや苦しさ気持ちを感じ取らせる。</p> <p>●もし、自分だったら、スランプを克服することはできたかについて考えさせる。(補助発問)</p> <p>●決してあきらめなかった松井選手の思いが克服に向かう原動力となった点を理解させる。</p> <p>●小さな目標でも、それらを達成していく喜びが自信となり、次の目標に向かう意欲となること</p>
	<p>(4) 自分自身を振り返る。</p> <p>①今後、自分自身の目標を達成するために、どのように取り組むかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな目標を設定する。</li> <li>・目標をもっと細かく分析する。</li> <li>・絶対に達成しようとする強い気持ちをもつ。</li> </ul>	<p>●小さな努力の積み重ねが大きな目標の達成につながることを理解させる。</p> <p>★自分の立てた目標に向かって努力しようとする実践意欲を高めることができたか。</p>
終末	<p>(5) 本時を振り返る。</p> <p>①本時の学習から気付いたことや心に残ったことを発表する。</p> <p>②教師の説話</p>	<p>●本時の価値について確認する。</p> <p>◆過去の偉人の言葉 (P. 21) を紹介し、教師の説話を加える。</p>

## 教科用図書（教科書）を適切に使用した指導について

名寄市立風連中央小学校 教頭 赤澤 静恵

### 1 教科書を適切に使用した指導

○「平成 26 年度中学校教育課程編成の手引き」（道教委）に、「教科書を適切に使用した指導」について掲載している。

（ポイント） 教育の機会均等を実質的に保障し、全国的な教育水準の維持向上を図るため、教科書を適切に使用し、指導する必要があります。

そのため、教科書を使用する意義を確認し、教科書編成上の配慮や工夫を踏まえて指導することが大切です。

（教科書を使用する意義）…教科書を使用する法的根拠（法令遵守）

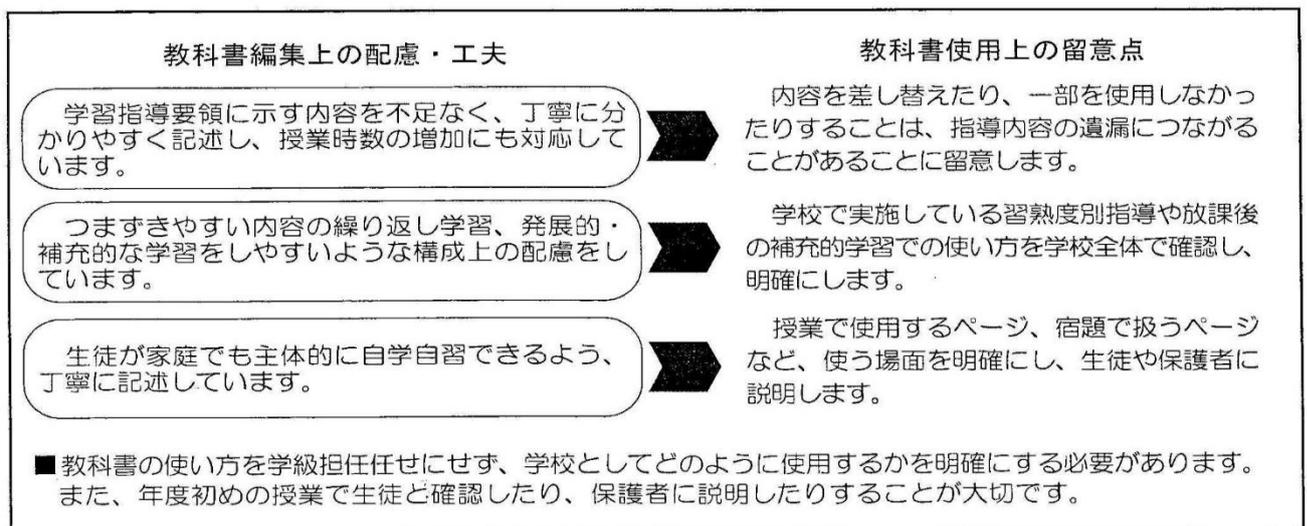
#### 教科書の学校教育での位置づけ

教科書とは、「小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、教育課程の構成に応じて組織配列された教科の主たる教材」（発行法第 2 条）として位置付けています。

また、教育の機会均等を実質的に保障し、全国的な教育水準の維持向上を図るため、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科書用図書を使用しなければならない」（学教法第 34 条、49 条中学校準用）と示されており、教科書を使用することが義務づけられています。

### 2 教科書を編成上の配慮・工夫を踏まえた指導

○平成 20 年「教科書の改善について（報告）」以降、各教科書会社は、教科書の装丁や大きさ、文字の大きさ、イラストの色、配列、使い方の提示など、工夫している。



○教科書の使い方については、学級担任まかせにすることなく、学校として、①どのように使用するのかを全教職員に周知し実技研修をする、②児童生徒に教科書の使い方を指導する、③保護者に教科書の使い方を説明することが重要です。

### 3 指導事例

#### (1) 扉のページの活用について（「しょうがく さんすう1」より）

- 1年生の12・13ページの絵を見ると、
  - ①タンポポが5本、それが2列に並べてあり、10のまとまりが見付けやすいこと。
  - ②左ページのクマが5匹、右ページのクマが4匹、5と4で9に気付けること。  
また、同様に、タイヤが右に5本、左に3本で8に気付けること。
  - ③ボールが柵に8個、クマが遊んでいる2個を片付けると全部で10。8と2で10になることに気付けること。
  - ④蝶がタンポポにとまれるよう近くに描いており、鉛筆の線で結んで数の違いを数えることができる。
  - ⑤1輪車は、同じ色が2つずつあるので、「2とび」で数えることに気づけること。
  - ⑥クマの服のボタンの形は、○が10個（1つ見えないので9個）、□が4個、△4個なので、これも、「2とび」で数えられること。

○イラスト内の動物や植物、物が意図的にデザインされており、数についての感覚を育むことができる。

○児童の数に対する気づきを促し、教科書を使って、問題を作る活動に発展させることができる。



☆主体的に学習に取り組む態度を育て、アクティブラーニングに向かう素地を育むことが重要

#### (2) 数値や問題間のつながり（「小学 算数5」より）

- 5年生の101～104ページでは、まず、101ページの「どんな学習が始まるかな？」では、問題場面のイラストから、平均の概念づくりに誘いますが、深入りすることなく、教科書の問題1を扱い、水面の高さを等しくする操作や、半具体物（積み木）の操作になり、「ならず」ことに気付かせます。
  - ①平均の計算結果は80mlですが、この数値は、問題1の5つのマスの中央にあるマスの数値が80mlとなっています。（答えが問題の中にある）
  - ②「ならず」とは、多いところから少ないところに移してみること。  
(90から70に10移し、100から60に20移して) 80mlにできるというイメージがつきやすいよう、マスの並べ方が工夫されている。）
  - ③こうした概念ができた上で、ステップアップしたたしかめ1は、平均が63gですが、これは、示された4つの卵の重さの中にないので、式で求めさせます。  
求めた答えは、問題場面にはないが、実際には存在する数値であることから、この問題を扱うことにより、扉のページのジュースの量という具体物から離れた操作へと発展したことになる。
  - ④更なるステップアップは、104ページの問題3のサッカー得点の平均点については、3.6点となる。既に、たしかめ1で平均を計算で求めることができるようになっているため、この得点を求めることは簡単であるが、実際の試合では、3.6点は存在しないため、平均の考え方が一般化されたことになる。

○教科書は、扱う数値が十分検討され、問題間のつながりも考えられている。

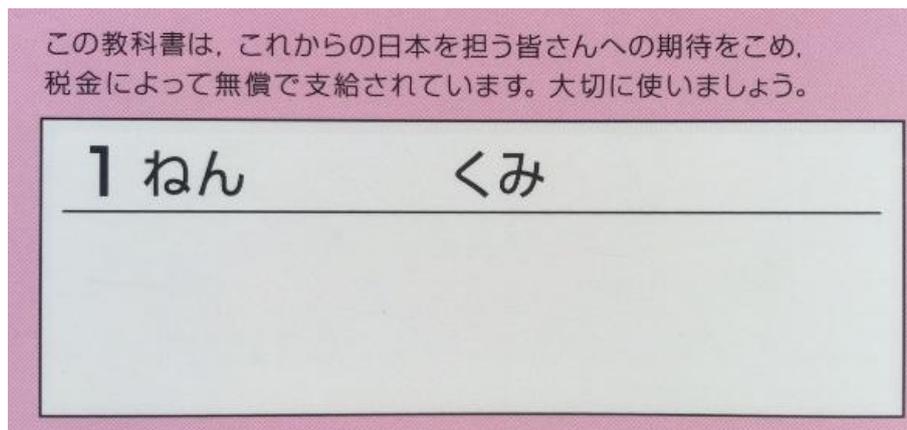
### (3) 問題場面の設定における失敗例（「小学 算数6」より）

- 6年生の106ページの問題場面を使わず、失敗してしまうことがあります。
  - ・ 伴って変わるふたつの量から求めようとして、「変わるもの」を上げさせると、「厚さ」が出てくる。
  - ・ 「厚さ」を実際に測定してみると、誤差が大きく、正しく求められないため、「厚さ」を選んだ班は路頭に迷います。

○各教科書会社の教科書を比較すると、厚さを扱った会社は、「ベニヤ板」など、ある程度の厚さがあるものをつかっている。教科書が、なぜ色紙で枚数を問うのかには、重要な理由があるということ。



☆教科書を使い、**教えること**の効率を高め、子供たちを迷わせることなく**考えさせ**、**問題練習**の時間を確保するため、教科書を適切に使用した指導が重要である。



- 教科書の裏表紙の氏名記入欄の上にあるとおり、
  - ①子供は国を担う存在であること、
  - ②税金で支給されたものであること、教科書は、使用すべきものであることを表している。

## 「言語活動の充実」について

名寄市立風連下多寄小学校 教頭 大野 昌広

### 1 なぜ、「言語活動の充実」が求められているのか？

#### (1) 背景

- ①知識基盤社会の到来，グローバル化の進展＝変化に対応していく能力の育成
  - 幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断
  - 切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくこと
- ②国内外の学力調査の結果→思考力，判断力，表現力等に課題
  - 読解力に課題（PISA調査）
  - 記述式問題に課題（全国学力・学習状況調査）
- ③教育基本法の改正等により教育の理念が明確化，学校教育法の改正により学力の重要な要素が規定
  - 学校教育法30条②

前項の場合においては，生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

- #### (2) 学習指導要領で「言語活動の充実」を重視→各教科等を貫く重要な改善の視点
- 小学校学習指導要領「総則」（一部抜粋）

##### 第1 教育課程編成の一般方針

学校の教育活動を進めるに当たっては，各学校において，児童に生きる力をはぐくむことを目指し，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

その際，児童の発達の段階を考慮して，児童の言語活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

##### 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

2(1)各教科等の指導に当たっては，児童の思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から，基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え，児童の言語活動を充実すること。

#### ポイント①

各教科等において言語活動の充実を図る

#### ポイント②

思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から言語活動の充実を図る

## 2 「言語活動の充実」のポイント！

### (1) 各教科等の目標を実現するための手立てとして

各教科等における言語活動は、国語科で培った能力を基本に充実を図る必要があります。その際、各教科等の特質を踏まえつつ国語科との関連を図りながら取り組む必要があります。

→「言語活動の充実」が目的ではなく、あくまで各教科等の目標を実現することが目的！

#### ポイント①

各教科等の目標を実現するための手立てとして言語活動の充実を図る！

※国語「基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う」  
(言語活動の充実に関する基本的な考え方)

### (2) 思考力、判断力、表現力等をはぐくむためのものとして

#### ポイント②

子どもたちの課題発見・解決能力やコミュニケーション能力等を育成するために、各教科等において思考力、判断力、表現力等をはぐくむ言語活動の充実を図る必要があります。

思考力、判断力、表現力等をはぐくむためには、例えば①～⑥のような学習活動が重要である。これらの学習活動の基盤となるものは、数式などを含む広い意味での言語である。このため、各教科の教育内容として、これらの記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要がある。

#### ① 体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

#### ② 事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

#### ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす  
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

#### ④ 情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する  
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめてA4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する  
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする  
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

#### ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする  
・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

#### ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う  
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる